

西日本新聞

発行所
西日本新聞社
福岡市中央区天神一丁目
4番1号 (〒810-8721)
©西日本新聞社 2008年

2月28日
(木曜日)

全国の大学生が制作した作品を通して、現代の建築や都市デザインなどについて議論を深める「第十三回学生デザインレビュー2008」が三月十五、十六の両日、北九州市立大国際環境工学部のひびきのキャンパス(若松区)で開かれる。同市では初開催となるイベントを前に、運営を担当する学生実行委員会の江戸美慧委員長(三三)に大会の意義や内容を聞いた。

「学生デザインレビュー」とは、どのような大会ですか。「建築やデザインなどを専攻している全国の大学生が、パネルや模型などを使って都市デザインや建築物などのアイデアを出し合い、意見を交換するコンテストの場です。今年のテーマは、『キミのチェックをみせてくれ』。提出する作品には特に定義を設けていないので、型にはまらない自由な作品が並ぶと思います」

「どのような作品が、何点く

「学生デザインレビュー2008」 学生実行委員長

江戸 美慧さん(22)



学生の建築デザイン披露

らい出展されるのですか。

「今年の出品数はまだ確定していませんが、例年約五十大学から、百人前後の学生が出品しています。都市をとりまく問題などについて、自分なりの解決策を考えて作品に反映したり、理想の建築物のイメージなどをアピールします」

いて教えてください。

「二日目は参加者全員がボスターやパネルを展示して、来場者や『クリティーク』と呼ばれる審査員役の五人の建築家に、自分の作品をアピールします。二日目は全体から選ばれた十程度の優秀作品について、制作者がプレゼンテーションを行い、最優秀作品を決定します」

「北九州市立大を中心に九州大や九州産業大など福岡県内の六大学の学生約百人が、実行委員会のメンバーとして活動しています。委員会では企画、広報、財務、運営の四部門に分かれて、日本建築家協会九州支部や教員の方々の協力を得ながら、地元

企業に協賛金をお願いしたりプログラムの内容を考えたりしています」

「苦勞している点はありません。最後に、どのようなイベントにしたいですか。」

「専門家だけでなく、一般の方や建築に興味のある高校生などに来場してもらい、学生たちの作品から熱い思いを感じてほしいですね」

「実行委員会が発足したのが昨年十一月だったため、何をやるにも時間がないことです。建

築家の方にクリティークを依頼するの

から一からのスタート。電

話やメールなどで交渉し、決定まで二カ月かかりました」

「メンバーの数が多く、発足当初は情報伝達がうまくできませんでした。ただ、今では各部門ごとに定期的な会議を開くなど、スムーズになりました」

(若松支局・姫田朋寛)



えど・よしえ 1986年生まれ、島根県出身。北九州市立大国際環境工学部空間デザイン学科3年。大学では主に建築分野について学んでおり、4月からは「コ始ンバクトシティー」をテーマに研究を始める予定。将来の目標は明確に決めているが、「建築関係の仕事に携わったり、さまざまな人と出会ったりしたい」と話す。八幡西区在住。

ひと地域